巻頭言

「技術関係者のベクトルを成果に向けて」

取締役専務執行役員　建築本部長
中村　純雄

建設業を取り巻く環境は「生き残り」が叫ばれて久しいが，この間，業界の淘汰再編も確実に行われてきており，又，この現実を我々も目の当たりにしてきた。現状は大手数社が技術力を含めた総合力で収益率を向上しつつあり，益々勝ち組，負け組が明確に現象化する厳しい環境であることを，まず冒頭に強く認識して，次に進まなくてはならない。

今，あらゆる産業においても，日々，技術，コストに企業の命運を賭けてしのぎを削っているのが実情である。技術と一言で言っても，ＩＴ関連や，電気関連等，次々と新製品の開発を行い，消費者の購買意欲をあおり，短期に技術の更新が行われている技術分野もある。しかし我々建設業の技術はそれらと同列では語れない。すべて製品の条件が違う，地盤，気象　用途等それぞれの条件にあった技術の提供であり，実績，経過，考察等を行いながら技術の更新が行われる分野である。ふと見渡したとき，新幹線が，又，高速道路が国土を縦横に走り，高層建築群が立ち並び首都の景観も大きく変わってきている。これらは関係者の日々の技術への取り組みがあってもたらされている。

建設の技術のもう一つの大きな使命は，人命を守ることである。建築基準法の第一条には，「国民の生命，健康及び財産の保護を図り，もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。」と明記されている。あらゆる産業の技術の向上によってもたらされた恩恵にどっぷりつかって生活している今，突然の地震や津波，洪水等の災害で大きな悲劇に遭遇する現実もある。防災を含めた，インフラ整備や，建設物の構築に今後も我々建設分野の役割は大きいものがある。その為にも，技術の開発，改良，向上は永遠の重要課題である。

土木部門はすでに，業界のリーダーとしての実績を持ち，又，技術の改良，新技術の開発には日常的に取り組んでいるが，プレストレストコンクリート技術を，今後更に建築分野に拡大し，当社の差別化の資産として行きたいものである。建築部門の PCaPC 工事は現在首都圏で２件，高層 PCa 工事は九州で１件を当社元施工で施工中であるが，これを弾みとして，PC 建築の技術の更新と，コストの検討を進めて更に拡大するべく，真摯な努力が求められている。

当社は，技術発表会，技術講習会等が適宜開催されているが，これらにより強い関心を持ち，日常的な技術の開発向上への取り組みが，当社の企業風土のひとつとして位置付けられたい。先の，６月７日開催された平成１７年度技術発表会，６月２２日の耐震補強社内講習会において，当社技術陣の研究テーマの発表が，ベテラン又，若手技術者によって，熱心に行われたのを見る時，大変頼もしく，力強く感じた。地道な技術開発への努力に敬意を表し，同時に施工にあたっては，工事部門が確実な品質の確保と向上に，尚一層の取り組みを行い，技術にかかわる者がベクトルを合わせて，技術のピーエス三菱の名を更に高めていこうではありませんか。